

---

# ONE PIECE ~ 水色の幽霊 ~

白熊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ONE PIECE ～水色の幽霊～

### 【Nコード】

N4632BA

### 【作者名】

白熊

### 【あらすじ】

ある所に水色の髪の女の子が居ました。しかしとある出来事で死んでそしてONE PIECEの世界に迷い込んだのです。これはその女の子の物語…。

## まずは注意事項（前書き）

只のONE PIECEの世界に迷い込んだ幽霊の物語です。

## まずは注意事項

この小説は改造が多々あります。

原作の順序や口調が違ふ所もありますが、暖かい目で見てくださると嬉しいです。

読んだ後の責任は一切取らない事を此处に記しておきます。

改造しているので原作で死んだ人が生きてたり、原作無視のオリジナル方面に行く事が多いです。  
そしてキャラ崩れしています。

こんなに注意事項があるのに、作者は文才皆無ですのでご了承ください。

最後に一言

出来るだけ読者様がお楽しみできるように頑張りますので宜しくお願ひします。

**まずは注意事項（後書き）**

初投稿です。

… 初投稿で注意事項なのは作者がビビりだからです。

## ネタばれ&プロフィール（前書き）

今日久しぶりにクラスで大縄をやりました。  
もうすぐ大縄大会です。

去年できなかった子も出来るようになりました。

…女子は。

優勝できるかな？

## ネタばれ&プロフィール

名前 アサヒ

性格 悪戯大好き、

容姿 水色の髪、可愛い系の顔、服で見えないが体に傷が多い

趣味 悪戯しまくる事

秘密 実は三次元で死んで幽霊としてONE PIECE の世界に來た（原作には興味はないが登場人物は全員知っている）

設定 後に「水色の恐怖」と世界で恐れられる  
体は、普段は触れないがアサヒが意識すれば触れるし視えなくなる

生きるのに必要なものはアサヒには必要ない  
死人を生き返させる事ができる  
霸氣が効かない  
万が一怪我しても痛みは無い  
一応氣配が在る為、分かる人間には分かる

死因 出血死（家族にナイフでズバツと殺られた）

特技 悪戯、演技、全身から血を出すこと

## ネタばれ&プロフィール（後書き）

追加設定あるかもです。



## 初めての海軍本部（前書き）

もうすぐ勉強のまとめの時期です。  
嫌だなア…。

## 初めての海軍本部

此処は海軍本部の会議室…。

センゴ「どうしたものか…」

ガープ「調べて見れば良いだろう」

おつる「調べるなんて嫌だよあたしは」

一体何の会議をしているかと言うと…

黄 猿「…でも“女の子の幽霊が出た”という報告は今シーズンだけで60件以上でていますしね」

場が静まり返る

ガープ「青二才！お前が行くんじゃ！」

青 雉「嫌ですよ。幾ら俺が女好きでも幽霊はね…」

センゴ「…これでは決まらん。クジで決める。いいな」

皆、厳しい顔で頷く

センゴ「調査に向かうのは…青雉だな」

青 雉「ちょっ！誰か交換して！」

皆、青雉に同情の視線を送る

黄 猿「クザン！決まったもんは仕方ないよ」

青 雉「…誰か一緒にいつてよ」

センゴ「我々は今日の夜この部屋にいる…何かあったら叫べ」

こうして決まったのだった

…その日の夜の海軍本部…

青雉は今資料室前の廊下を歩いている。

聴こえるのは青雉の足音だけ

青 雉「…ハア」

アサヒ「ヴ〜ヒック…痛いよ…誰か助けてよ…」

青 雉「!？」

青雉は今資料室前にいる

聴こえるのは女の子の泣き声だけ

青 雉「（おいおい…。マジかよ…）」

青雉はそんな事を思いながらもドアをゆっくり開ける

青 雉「お嬢ちゃん…大丈夫か？」

「アサヒ視点」

私はアサヒ。家族にナイフ刺されて死んで幽霊としてこのONE  
PIECE の世界にきたの！

私は悪戯が大好きだから皆驚かしてやる！登場人物しか知らないけど…。

この体はとっても便利でね呼吸とか食べ物とか要らないし、視る事とか触る事とか意識して変えられるの！更には生き物を生き返らせる事もできるの！

今シーズン何人驚かしたと思う？聞いておどろいてよ！かるく8  
0人はやったよ！

それにしても皆、反応面白過ぎ！だって奇声発したり、剃使って逃げたり、現実逃避したり流石

ONE PIECE！

おっと今誰かが廊下に居る…。気配からすると青雉だね。  
驚かせてやる…さアて青雉様はどんな反応するかな？

青 雉「…ハア」

乗る気じゃないの？だったらきつと会議で取り上げられたんだね。  
やった！

アサヒ「グッヒック…痛いよ…誰か助けてよ…」

これは私のやり方だよ！皆、簡単に騙されるから楽で面白い！  
でも今回は騙されないんだよね…会議で来たから。

ガチャ…

（青雉視点）

ドアを開けるとそこには…

…血まみれの女の子がいた

青 雉「！？大丈夫か？誰にやられた？」

俺はわざと知らない振りをした

アサヒ「…言っているの？」

青 雉「言っでござん」

俺は優しく水色の髪の子に聞いた

アサヒ「これはね…貴方達海軍にやられたの…」

女の子がそう言った瞬間頭の中が真っ白になった。そして数秒間後認識した。

アサヒ「ねエ？貴方のこっち側に来てよ…皆、貴方が来るのを待ち望んでいるよ」

女の子がそう言って俺の腕を引っ張る。

この傷は俺達海軍がつけたものでこっちというのは…あの世？

…という事はこの娘は…幽霊。

そう思った瞬間俺は何も考えられなくなった。

青雉「ヴッアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

次の瞬間には意識がだんだん遠くなっていった。

最後に見たのは血まみれの女の子が微笑んでいた所だった。

アサヒ視点

あははッ！こんな反応あり？ちよつと遊んだだけに奇声発して更には失神って！

青雉様でもこんな反応するんだなア。

あッそうそう！血まみれっているのはね出血死だったからなのか全身から血をだせるの！

私は利用できるのは利用するよ？あははッ！

おつと中将様や大将様、元帥様も来ますよ。

私は失神した青雉の服を更に血をつけて、引つ張った腕を青くなるまで握り締める。

そして意識して“視えない”にした

～センゴク達視点～

私達は会議室にいる

モモン「青雉大將は大丈夫でしょうか？」

黄 猿「何かあった時の為に此処にいるんだよ」

質、ポリポリしている。

青雉を信じない訳ではないが、何となく何かあるような気がする…。

青雉「ヴッ  
アアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

みんな「!!!!!!」

セング「行くぞ！」

大急ぎで声のした資料室に向かう

バンツ！

セング「大丈夫か!？」

床には青雉が失神して倒れていた。血まみれの服のようだ。

おつる「青雉！大丈夫かい？何が在った？」

青雉「ツン…おつるさん…女の子が…」

黄猿「クザン……その腕どうしたの？」

青雉「え？」

青雉は見た…青くなつた腕を…。

青雉「……………」

青雉は失神「するな!」…しなかった。

ガープ「…姿を現したらどうじゃ?」

???「あゝもゝ楽しかったのに…。何で分かるかな?」

出て来たのは報告通りの女の子

みんな「!!!!???」

皆一斉に殺気を出し、獲物に手を掛ける

おつる「…あんたは何者だい?」

おつるさんが慎重に聞く

???「私?私はアサヒ!正真正銘の幽霊だよ!」

センゴ「…何が目的だ?」

アサヒ「目的?目的何て無いよ!楽しいからやるだけ!」

場が静まる

モモン「目的が無いのならば止めてくれないか?迷惑なんだ」



モモンガが睨みを効かせて言う

アサヒ「えゝ嫌だ！楽しみが無くなっちゃう！」

更に殺気が資料室がに広がった

ガープ「がはははは！！随分と元気の良い子じゃの！」

ガープの言葉で一気に殺気が消えた。

センゴ「ガープ！」

アサヒ「エヘヘ／＼／」

アサヒという幽霊は照れている

…アサヒという子は根が素直かもしれない。

ガープとアサヒは思いつきりのほほんワールドを繰り広げている

…何をやっているんだ

青 雫「…ねエアサヒちゃん。アサヒちゃんはどうして死んじゃったの？」

アサヒ「え？それはねー家族の奴らにナイフでズバツと殺られた！」

部屋の温度が低くなった

青 雫「そう…苦勞してんのね…」

アサヒ「でもでもー私の幽霊友達は貴方達のバスターコールで殺られたって!」

更に部屋の温度が低くなった

赤 犬「海賊じゃろう。死んで当然」

アサヒ「一般人だよ!オハラ産まれの子!」

みんな「!!!??」

青 雉「いるの!?!オハラ産まれの幽霊!」

アサヒ「いるよ!」

青 雉「…そう」

アサヒ「海兵の幽霊もいるよ!オハラに」

青 雉「!?!今度連れてってくれる?」

センゴ「クザン!」

アサヒ「いいよ!」

おつる「…アサヒ。これからどうするんだい?」

（アサヒ視点）

おつる「…アサヒ。これからどうするんだい?」

大参謀様に言われて悩む

アサヒ「うゝん…。これからは反応に期待できないしな…。うん！海賊達を驚かしてやる！」

赤 犬「！？…それはわし等に対する敵対行為と受け取るぞ」

アサヒ「私は死んでいるんだから世界の法なんか関係ないし！」

ガープ「がはははは！確かにのゝ」

いいよね？死んでんだし。

アサヒ「ガープじい！また会いにくるね！」

センゴ「来ないでくれ…」

アサヒ「嫌だよだ！じゃあね！ガープじい！」

こうして私は早々と海軍本部から海賊船に向かった

## 初めての海軍本部（後書き）

はいッ！早速キャラ崩れです。

青雉ではなくコビーにしようと思った後に思ったのですが将校でないコビーでは

過程が思いつきませんでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4632ba/>

---

ONE PIECE ~ 水色の幽霊 ~

2012年1月13日16時45分発行